

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 4 月 10 日作成)

小委員会名	オープンビルディング小委員会	主 査 名：松村 秀一 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会(構法計画運営委員会)	委員長名：布野 修司 主 査 名：野城智也
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 膨大な既存建築物のストックを環境負荷の少ない方法で効果的に改修・転用していく技術体系の確立が求められており、オープンビルディングの計画手法はその実現に大いに役立つ可能性がある。</li> <li>・ そこで本小委員会では、レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践、アーバンティッシュの概念整理とその更新手法の検討、ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方の検討に取り組む。</li> <li>・ 同時に、CIB W104 (Open Building Implementation) の日本窓口として、オープンビルディングに関する研究・実績・教育の普及活動にも取り組む。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 主査：松村秀一(東京大学) 幹事：門脇耕三(首都大学東京) 藤本秀一(建築研究所) 森田芳朗(千葉大学) 安枝英俊(京都大学) 委員：鎌田一夫(住まいの研究所) 小畑晴治(日本開発構想研究所) 佐藤考一(建築・環境ワークス) 澤田誠二(明治大学) 曾根陽子(日本大学) 近角真一(集工舎建築都市デザイン研究所) 南一誠(芝浦工業大学) 安藤正雄(千葉大学) *WG 委員：遠藤淳子(都市再生機構) 加茂みどり(大阪ガス) 辻沢年彦(三梓設計事務所) 宮坂公啓(宮坂建築事務所) 石見康洋(芝浦工業大学) 安達好和(NEXT) 角田哲志(大林組) 成田一郎(大成建設) 石塚克彦(東日本住宅評価センター) 忍裕司(竹中工務店) 太田昭夫(OT住宅研究室) 丁志映(千葉大学) 本田広昭(オフィスビル総合研究所) 金容善(東京大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<b>SI 技術の開発・実践 WG</b> ：レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践を行う。 <b>アーバンティッシュの更新手法 WG</b> ：アーバンティッシュの概念整理とその更新手法の検討を行う。 <b>ストック時代の構法・産業・制度 WG</b> ：ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方の検討を行う。	
2008 年度予算	195,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/">http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	なし
大会研究集会	なし

対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p><b>SI 技術の開発・実践 WG</b>：レベル概念を用いたストック活用技術の開発・実践に向けた議論が交わされた。</p> <p><b>アーバンティッシュの更新手法 WG</b>：アーバンティッシュの概念整理とその更新手法の検討に向けた議論が交わされた。</p> <p><b>ストック時代の構法・産業・制度 WG</b>：ストックの高度活用を支える構法・産業・制度のあり方の検討に向けた議論が交わされた。</p>
委員会活動の問題点・課題	2009 年度以降の活動に向けた十分な議論が交わされた。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。